

令和元年台風第19号による被害対応について

1. 最新の被害状況（総務省消防庁 12月12日 15：00 発表）

<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/items/taihuu19gou63.pdf>

2. 各地の情報共有会議（12月24日現在）

地元の団体を中心に各地で支援関係者による情報共有会議が開催され、各自の活動を通じた課題を共有し、それらの解決を図っています。福島県いわき市、栃木県宇都宮市、宮城県丸森町では、市町域で活動している支援団体による情報共有会議も行われていますが、復旧・復興のフェーズが変わるにあたり、体制の見直しや開催頻度なども状況をみながら今後変更になる可能性があります。

3. 各被災地の状況・課題について

JVOADとして、各地にスタッフを派遣しながら、地元のネットワークとの連携や情報共有会議から支援状況や課題を把握し、サポートしています。

宮城県	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月17日より災害VC支援連絡会議が行われており、行政、社会福祉協議会、地元の間支援組織、NPOなどが参加、被害が甚大な丸森町では支援関係者による町域の情報共有会議も行われている ・丸森町では、在宅避難の状況が少しずつ把握されてきているが、まだお風呂にも入れない、洗濯もできない状況の家も多いことから、外部支援との調整も行っている ・丸森町でも、建設型仮設住宅への入居が始まった <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床下・壁対応 ・在宅避難の全体把握ができていない ・生活再建のための情報が住民に届いていない、今後の見通しを示していく必要がある ・今後、技術系の支援や見守り、サロン活動なども必要になってくる
福島県	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふくしま連携復興センターの呼びかけで情報共有会議を開催 いわき市では10月31日から毎週木曜日にいわき市社会福祉協議会、行政、NPO等による「いわき市支援者情報共有会議」が行われている ・水害にあった時の家屋対応に関する講習会を、福島県内で行政、大工や建設業、住民向けに継続して行っていきたい ・災害ゴミの個別回収は、予定通り12/20で終了

	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアセンターの活動は、12/28もしくは29までを予定、年明け以降については週末型にすることも検討 ・在宅で避難している人の中に咳がひどくなってきている人もいる、暖房器具を使用するようになりカビなども増えているので影響がある可能性がある ・保育園に通えなくなった子どもや送迎ができなくなった子どもを預かっている団体もいる、市の方でもサポートが始まっている <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床下・壁対応 ・寒さ対策が必要 ・在宅避難者の状況把握ができていない
栃木県	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栃木県の呼びかけで10月16日に情報共有会議が開催され、行政、社会福祉協議会、地元の間支援組織等、地元団体を中心に開催、テーマごとに課題を共有し、解決を図るように会議を進めている 会議の目的を共通化し、日程調整を行った上で1月に実施予定 ・発災前から検討していた「栃木県内の災害時に関するネットワーク」の検討会を実施、今回の災害対応も踏まえて、JVOADもサポートしながら引き続き、進めていく ・足利市では、ケアマネ協会が在宅避難者の調査を実施予定 ・栃木市では、避難所を出た世帯のその後の調査を保健所などが対応予定 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床下・壁対応 ・行政・社協後援で、民間主体の「暮らし復興支援センター」が設置されているが、中間支援としてコーディネーションできる人が不足している、外部支援も必要
茨城県	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茨城県社会福祉協議会、茨城NPOセンター・コモンズ主催で、災害支援いばらきネットワーク会議（情報共有会議）を定期的に開催 ・12/15（日）に常陸大宮市で実施した協働型サロン「ぬくもりを届けるプロジェクト」には、47名の方が参加し、そのうち27名の方が足湯にも参加 ・1/18（土）、常陸大宮市で床下や消毒の講習会の依頼があり、コモンズで対応する予定で調整している ・大子町は、生活支援相談員事業に申請、他に検討している地域もある ・電気毛布などの配布について、サロンを実施した地域の区長などとも相談しながら進めていく予定 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床下・壁対応

埼玉県	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県災害ボランティア団体ネットワーク「彩の国会議」主催で、10月16日から情報共有会議を実施、彩の国会議メンバーを中心に定期的に情報共有している ・今回の対応をふりかえる中、避難所や生活支援に関する認識が足りなかったこと、ボランティアセンター閉所後の相談窓口が分かりにくかったこと、被災者のメンタルケア、物資支援のコーディネーション、生活支援に向けた情報提供などの具体的な課題があがっている
千葉県	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋根の本格修理が終了するまで、長期にわたってブルーシートでの応急対応、張り直しが必要になることから、JVOADは千葉県と連携しながら、千葉県社協、千葉南部災害支援センター、技術系支援団体等の協力のもと、今後の地元支援者、住民向けの講習会の調整を行っている <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨漏りによるカビが発生している ・長期にわたるブルーシートの張替えへの対応
長野県	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月14日から定期的に情報共有会議が開催されている、現在、週1回（毎週月曜日）の開催となっている、全体共有後は、部会（生活支援、農業・技術系、子ども&学校連携）に分かれて課題の解決に向けて検討している ・農ボラの募集は12月17日で終了、総活動人数は延べ6,508名 ・12/20をもって、避難所は全て閉所 ・現地ニーズに即した被災者・被災地支援を効果的に実行するため、行政、NPO、社協等が情報を共有し相互に連携補完する体制として、「ONE NAGANO 復興協働会議」が発足 ・民間主体の交流拠点として、長野市内で被害の大きかった豊野地区に、住民同士の交流や支援拠点となる施設「まちの縁側ぬくぬく亭」が開設、来年3月まで毎日（10:00～17:00）オープン ・長野市では、地域ささえあいセンターが設置された <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床下・壁対応 ・在宅避難者の状況把握
その他の地域	<p>東京都：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都災害ボランティアセンター主催で10月17日から情報共有会議を開催 ・東京都内での対応が収束に向かっていることから、11月末から1月末までの予定で週に2回、福島県いわき市にボランティアバスを送っている ・1月16日（木）～19日（日）で、台風15号で被害のあった伊豆大島で「復興交流プログラム」を実施予定

	・東京都災害ボランティアセンターの中間報告会を1月に実施予定
--	--------------------------------

4. 災害ボランティアセンター

災害ボランティアセンターに関する情報については、全国社会福祉協議会のホームページにて確認ください。

URL: <https://www.saigaivc.com/typhoon201919/>

5. 今後のJVOADの対応について

引き続き、JVOADスタッフならびに応援スタッフ、関係団体と連携し、各地の情報共有会議などであがった課題について共有しながら、解決に向けたコーディネートを行っています。宮城県、福島県、長野県については、年明け以降もスタッフを常駐させて対応していく予定です。その他地域に関しても、引き続き出張ベースで対応してまいります。

仮設への引っ越しにともなうコミュニティ支援、在宅避難の方の状況把握など必要な支援はまだありますが、地域支え合いセンターの設置などが始まっている地域もあります。各地の復興状況にあわせて、JVOADとしても支援の「モレ・ムラ」のないように、引き続き、多様な関係機関と連携しながら対応してまいります。

以 上